

IFOAM PGS始めませんか
Glocalな有機認証システム

2021年10月
オーガニック雫石
イーハトーブファーム
小宮 菱一

目次

1. IFOAM（国際有機農業運動連盟）とは
2. IFOAM PGS（参加型認証システム）とは
3. オーガニック雫石におけるPGS組織運営
4. 認証と認定の違いを理解しよう
5. IFOAM Recognized PGSを取得するには
6. オーガニック雫石の場合
7. まとめ

1. IFOAMとは

IFOAM(アイフォーム): International Federation of Organic Agriculture Movements (国際有機農業運動連盟)の略称。

1972年にパリ近郊で設立。

有機農業を普及に努めてきた世界最大の国際的NGO。

現在の本部:ドイツのボン市。

IFOAM-ORGANICS INTERNATIONALの世界機関

581: Members, 152: Associates, 100: Supporters 127: Countries(2021年10月現在)。メンバー以外は総会における投票権がない。

構成メンバー: 各国の小規模農家、有機農業団体、有機認証団体
コンサルタント、研究者、消費者、国際流通企業など。

オーガニック雫石は日本で最初のIFOAM PGS INITIATIVESとして認定された(2018年)。

IFOAMの目的

IFOAMの目的

世界各国の有機農業運動をリードし、支援。有機農業に関する知識や技術の交流、有機農業に関する研究、教育活動、情報提供などの活動。

具体的な活動

* **有機農業に関する国際会議を主催**: 3年ごとのORGANIC WORLD CONGRESS。2021年はフランスレンヌで9月9日－11日にrealとonlineで開催された。オーガニック雫石からは1件の論文が採録され、更に総会(9月13日-14日開催)で4件の2021年から2024年までのオーガニック雫石からのIFOAM活動方針の提案(MOTION)が採用された。

* **自然環境や生態系と調和した有機農業の普及に尽力**: FAO*、UNCTAD**、IUCN***とともに有機農業発展のための情報提供

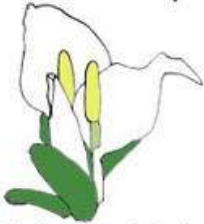
*: 国連食糧農業機構

** : 国連開発貿易会議

***: 世界自然保護連合

オーガニック雫石は2015年IFOAMの正式会員*となる
*: 現在の日本の会員数 10団体 (2021年10月現在)
オーガニック雫石のIFOAM DIRECTORY(名鑑) での記述

Ecofriendly



Shizukuishi

ORGANIC SHIZUKUISHI

Dai 28 Chiwari 132 Minamihata Shizukuishi
Cho, 020-0573 Iwategun Iwate-ken,
Japan

Tel: +81 19 695 2197

www.organicshizukuishi.jimdo.com

Organic Shizukuishi is located in Shizukuishi town in Iwate Prefecture, Japan. Our organization connects organic farmers and consumers with the intention to create future organic society.

Organic society intends to build more human friendly in terms of agriculture products, handicrafts design for daily life and natural arts. Therefore, we are heading for the Organic 3.0 direction of IFOAM - Organics International. And we are going to develop strong ties among people. This helps healthy and trustworthy human life in this community.

CONTACT: Katsuaki Takahashi, createfarm08@gmail.com

2. IFOAM PGSとは

現在日本には有機農業を支える認証制度として国際有機農業運動連盟(IFOAM)の基準に則って作られたJAS認証制度がある。

これは農水省の登録機関のみが認証できるしくみになっているが、生産者への書類作成などの負担が大きいことと、JAS認証を持たない有機農業者が有機野菜にラベルすら貼れない状況となっけしき有機農産物の日本農林規格の施行から21年経つのに有機生産者の増大にはつながっていなかった。

現在全耕地面積の0.2%(0.2% JAS 認証農家、0.3% JAS非認証農家)農水省はおおむね2050年までに、我が国の耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha.*)にする方針である。

*:現在は1万ha.

[参考] 緑の食料システム戦略

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/attach/meadri_summary.jpg

一方、IFOAMにはもっと簡易な参加型の認証制度PGS[Participatory Guarantee Systems]があり、農家の負担を減らせるしくみが取られている。

有機JAS以外の有機農業者の有機JASに対する姿勢
 (MOA自然農法文化事業団, 2011から作表)

有機JASに対する姿勢		「有機JASをやめた」と「とる予定がない」の理由 の回答数*	
以前とっていたがやめた	7 %	取得にかかる費用が高い	93
有機JASを目指している	11	申請書類が煩雑すぎる	90
現在申請中	1	とらなくても買ってくれる	47
とる予定はない	74	とる必要がない	46
その他	6	とるメリットがない	39
無回答	1	面積が小さいため	33
		消費者との信頼関係があるから	31
		有機JASは信用できない	28
		高齢のため	17
		その他	98

*複数回答(最大3つまで)の回答数(延べ回答数は522)

JASとPGS何が違うか

諸経費などからの違い

諸経費など	JAS	IFOAM PGS (オーガニック雫石の場合)
初年度	22万円+α	7,500円+α
次年度以降	17万円+α	7,500円+α
提出資料様式 ページ数 (未記入の場合)	応募様式：23 農場調査書様式：16	応募様式：11 農場調査書様式：6
対象生産者	大規模経営	小規模家族経営
商圏	国内/国際	小規模地域/国内* *：ネット販売など

IFOAM PGS基本理念

有機農産物を求める消費者に信頼性の高い保証を与える点で、IFOAM PGSは第三者認証制度と目的は同じ。

IFOAM PGSは有機農業に関心の深い生産者、消費者、小売店、栄養士、学識経験者、農業改良普及員、レストランシェフの面々（IFOAMではこれらの人々をSTAKEHOLDERと呼んでいる（以下SHと略す）が認証過程に直接参加する点が第三者認証とは決定的に異なる。

SHが生産・評価・農場調査などに積極的に参加すれば、有機農業と生産品に対する信頼が高まるのは当然。

この実現には、SHの有機農業関連のすべてのジャンルに関する知識・能力開発も必要。

SHの直接的参加によってPGSの取組みは文書作成・記録保存の面倒を少なくすることが可能。

IFOAM PGSの取組みは、小規模農家を有機農業に転換させることも狙いとしている。

JASのような第三者認証制度は、認証手続きに従っていることを“農民が証明すべきだ”という思想で始まるのに対し、PGSは、その根底に生産者に信頼を置いた“信頼に基づいた行動規範”を前提としている。

その信頼性は、徹底した透明性・公開性で成り立ち、官尊民卑の考え方や行政の関与を最小化した環境で運用することを基本理念としている。

(参考文献:参加型認証制度(PGS)の定義IFOAM(国際有機農業運動連盟)

Definition of Participatory Guarantee Systems IFOAM (International Federation of Organic Agriculture Movements) 日本有機農業研究会訳 [2012])

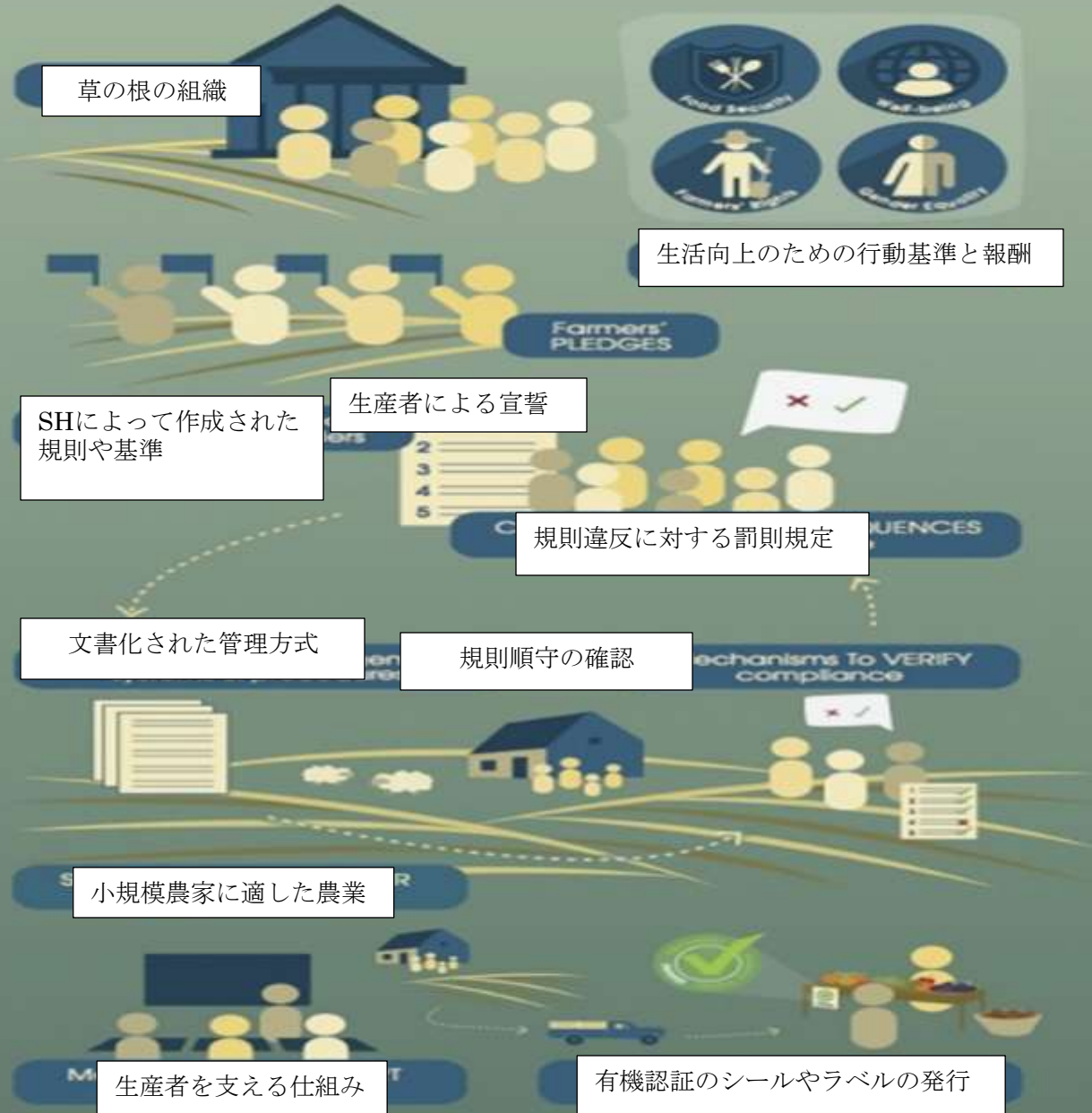
以下にIFOAM PGSの基本理念を構成する要素とその内容を示す。

基本要素	特徴
ビジョンの共有	草の根の相互協力、情報共有 (オーガニック雫石 資料1に反映)
信頼	生産者の有機農業を遂行していることの宣誓 (オーガニック雫石 資料4に反映)
水平性	すべてのSHによって作成された基準・標準など (オーガニック雫石資料2,3,5に反映)
透明性	文書化された管理方式、規則順守、明確に成文化された規則違反行為に対する罰則規定 (オーガニック雫石資料1,3に反映)
参加	小規模生産者およびSHの参加 (オーガニック雫石 資料1に反映)
継続的学習	生産者への継続的学習の勧め (セミナー・イベントの情報提供および参加、農場調査への参加 有機産物であることを認証するシール、ラベルの発行 (オーガニック雫石資料1,5,7に反映)

Participatory Guarantee Systems

KEY ELEMENTS

FEATURES



IFOAM RECOGNIZED PGS INITIATIVESとなるために

IFOAM PGSは、国が指定した第三者機関が認証を行うJASとは異なり、地域ごとのいろいろな職業を有する消費者、生産者等が農場の調査や認証に直接かかわるものである。

小規模ながら確実に有機生産者を増やすことを目的としている。

このためにはまずその申請は

- ①IFOAMの正式メンバーとなり、次に
- ②IFOAMに**認定**されたPGSグループとなる必要がある。

その後

- ③地域を単位としたPGSグループの構成員である生産者、消費者、販売者、学識経験者など(いわゆるSTAKEHOLDER)が
- (i)生産者の農場を調査し、
 - (ii) PGS INITIATIVESの打ち合わせ会で精査したうえで、
 - (iii)その生産者を各PGS INITIATIVESが認証する。

PGS INITIATIVESとはIFOAMに認定された地域のオーガニック認証組織である。

同時に、この認証プロセスは、その地域の資源の包括的循環を促し、環境保全の機運を高めるシステムであり、このような環境整備もIFOAMが狙いとしているところである。

IFOAM PGSの世界的動向

2021年現在IFOAM PGSとして正式に認定されている国(9 개국)
フランス、ナミビア、ニュージーランド、ニューカレドニア
米国、フィリピン、ベトナム、スリランカ、オーガニック雫石

[次ページ参照IFOAM recognized PGS Initiatives]

<https://www.ifoam.bio/en/ifoam-pgs-recognition>

IFOAMに正式に認定されたPGSグループとなることを待ち状態の国と地域数: 51

IFOAM Recognized PGS Initiatives in the world (2021年10月1日現在)

国名	URL	代表者
France	Nature et Progrès	Lise
Namibia	Namibian Organic Association	Manjo
New Caledonia (France)	Bio Calédonia	Aurélien
New Zealand	Organic Farm NZ	Carol
The Philippines	MASIPAG	Rowena
Vietnam	https://pgs.ifoam.bio/pgs_groups/31	vietnamorganic@gmail.com
Sri Lanka	Good Market PGS	Amanda
USA	Certified Naturally Grown	Alice
Japan	https://organicshizukuishi.jimdofree.com/	Katsuaki

PGS Initiatives not Recognized by IFOAM

(正式に認定されることを待ち状態の51の国と地域の一部を掲載)

Country	PGS name	Contact person
Indonesia	BIOTAMA (link is external)	biotama@gmail.com
Indonesia	PAMOR (link is external)	lidya@organicindonesia.org
Italy	DES Como, Brianza, Varese (link is external)	g.vergani@scret.it
Italy	Tuscany (link is external)	gig.freschi@gmail.com
Kenya	Langa (link is external)	info@koan.co.ke

<http://www.ifoam.bio/en/global-online-pgs-database> より

3. オーガニック雫石PGS INITIATIVESの組織運営

オーガニック雫石 PGS グループの組織運営

オーガニック雫石 PGS グループメンバー



消費者

及びその他のSTAKEHOLDERS

農業者



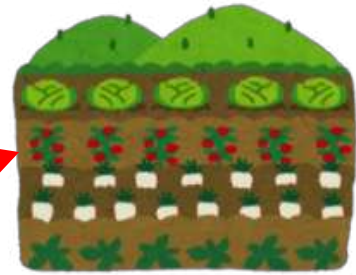
オーガニック雫石 PGS グループの機能

- 認証基準の設定
標準化と手順の決定
主要書類の維持管理
- 認証承認
LOGOの維持管理
- グループの承認外部との関係

調査チームによる農場調査

新規参入生産者

農場訪問



全 PGS 生産者の農場調査
年間を通じて実施)



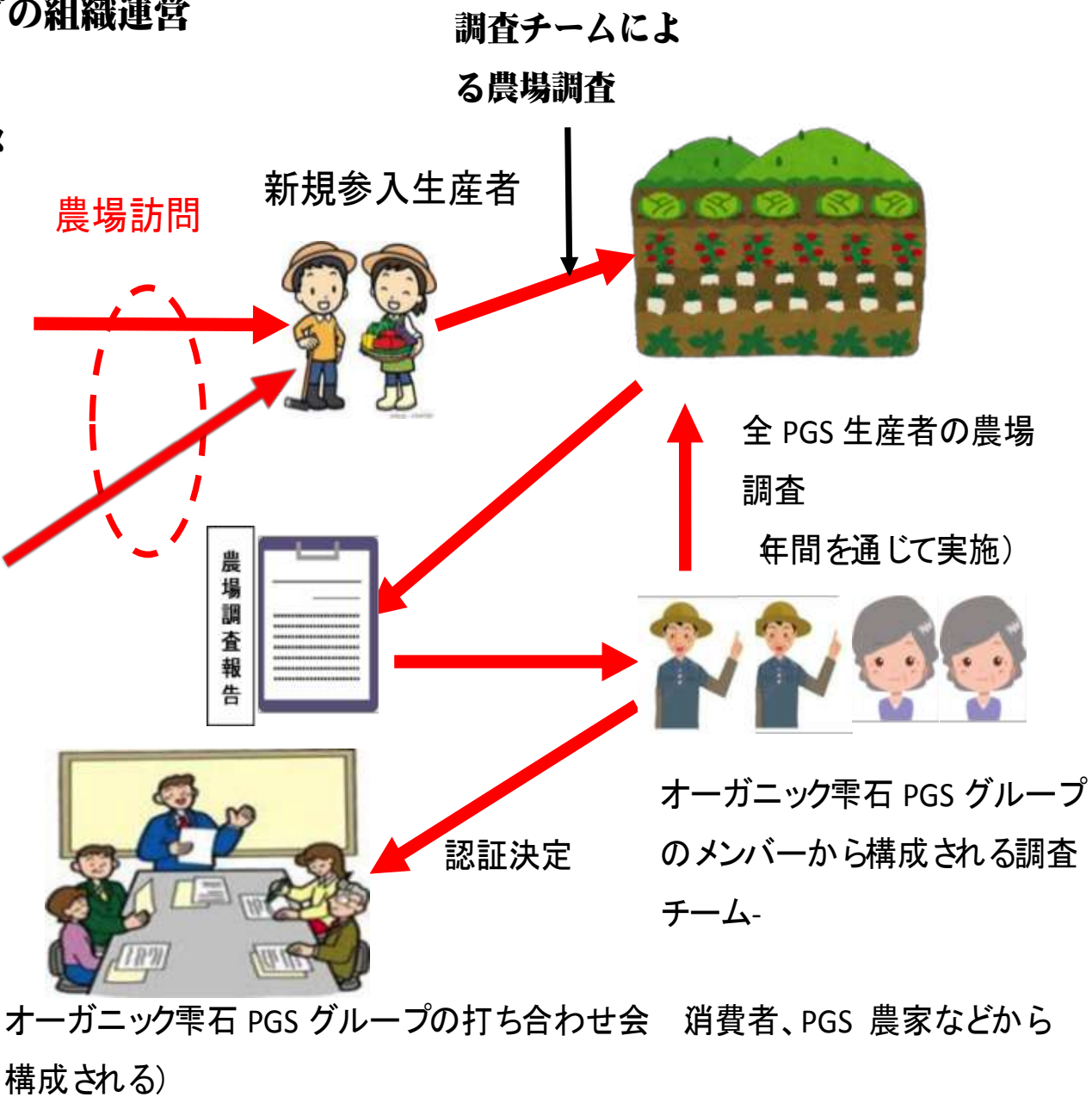
オーガニック雫石 PGS グループのメンバーから構成される調査チーム-

認証決定



オーガニック雫石 PGS グループの打ち合わせ会 (消費者、PGS 農家などから構成される)

消費者、PGS 農家などから



オーガニック雫石PGS INITIATIVES の業務運営

オーガニック雫石PGSグループでのPGS生産者の認証手続き

- [1] オーガニック雫石では毎年一度全PGS生産者の農場調査を定期的に実施する。
更に、生産物の品質を保つために年間を通じて非定期の農場調査も行う。
- [2] したがってPGS生産者の認証有効期間は1年。

講習会、研修会、イベントなどへの参加

オーガニック雫石では生産者、消費者、その他の有機農業関係者（全体をSTAKEHOLDERと呼ぶ）の知識向上のため地域単位で行われる講習会や研修会、イベント等へ参加することを推進している。

具体的には岩手県で毎年行われるオーガニックフェスタ、地域の有機農家の農場巡りとそこでの説明、岩手有機農業連絡協議会などが主催する講習会、研修会、地域に根ざした食育、大学と連携した食味の科学的調査、グループ内のSTAKEHOLDERによるオーガニック産品と加工商品に関する意見交換及びオーガニックキャラバンなど。

これらの情報はメールによる連絡や随時オーガニック雫石のホームページ

<http://organicshizukuishi.jimdo.com/> に公開される。

オーガニック雫石作成ドキュメント

(IFOAM RECOGNIZED PGS INITIATIVES となるために必要)

資料1：オーガニック雫石PGS運営方針：特に会員が運営方針に従わなかったときの対応を示すようにIFOAMから指示あり。

資料2：オーガニック雫石PGS有機栽培原則：
日本農林規格（JAS）に従っていればOKという
IFOAMから指示であるがオーガニック雫石応募申請書、
オーガニック雫石PGS生産者農場調査書様式との整合性
も考慮した栽培原則を付け加えた。

資料3：オーガニック雫石応募申請書様式：土地の肥沃さの管理
作物管理、水の管理、環境管理、病虫害管理、汚染と
汚染物質、収穫と梱包、洗浄・消毒・衛生（トイレ）設備
社会的公正性と公平性などを細分化した47項目の
アンケート調査からなる。

資料4：オーガニック雫石PGS生産者誓約書：
オーガニック雫石応募申請書の内容に虚偽がないことを誓約したもの。

資料5：オーガニック雫石PGS生産者農場調査書様式：
オーガニック雫石応募申請書の内容に沿って農場調査を進める様式となっている。

資料6：オーガニック雫石PGS会員認証書：農場調査の結果がOKの場合に出す認証書。認証する生産物名も具体的に記入する。

資料7：IFOAM PGSおよびオーガニック雫石ロゴの使用について：これらのロゴ適用基準が示されている。

資料の詳細はオーガニック雫石のホームページ参照

<https://organicshezukushi.jimdo.com/>

4. 認証と認定の違いを理解しよう

認証(CERTIFIED JAS認証・PGS認証)とは？

第三者認証、参加型認証にかかわらず、農場調査を審査官あるいは担当グループが直接実施・評価して圃場が有機農法によって管理運営されていることをみとめること。

(PGSの場合単に農場調査だけではなくIFOAM PGSの基本理念に従っているかも同時に問われる。)



JAS規格に基づいた調査書を使って認証をする(日本の場合)

IFOAMの基本理念に従って各PGS INITIATIVESが作成した調査書を使って認証をする*

第三者認証審査官による圃場調査



*: BONN在住のIFOAM PGS担当者が直接各国のPGS INITIATIVESの圃場を調査し認証することは物理的に不可能なため

PGS INITIATIVESメンバによる圃場調査

認定 (RECOGNIZED)とは？

認証は各国のIFOAM RECOGNIZED PGS INITIATIVESが担当。

一方IFOAM PGS委員会は認証の方法やPGSの運営方針がIFOAM PGSの基本原則に則っているかを各国のPGS から提出されたSEF EVALUATION FORMに基づいて審査し、委員会でこれらが認められればIFOAM RECOGNIZED PGS INITIATIVES (IFOAMから正式に認定された)PGSとなる。

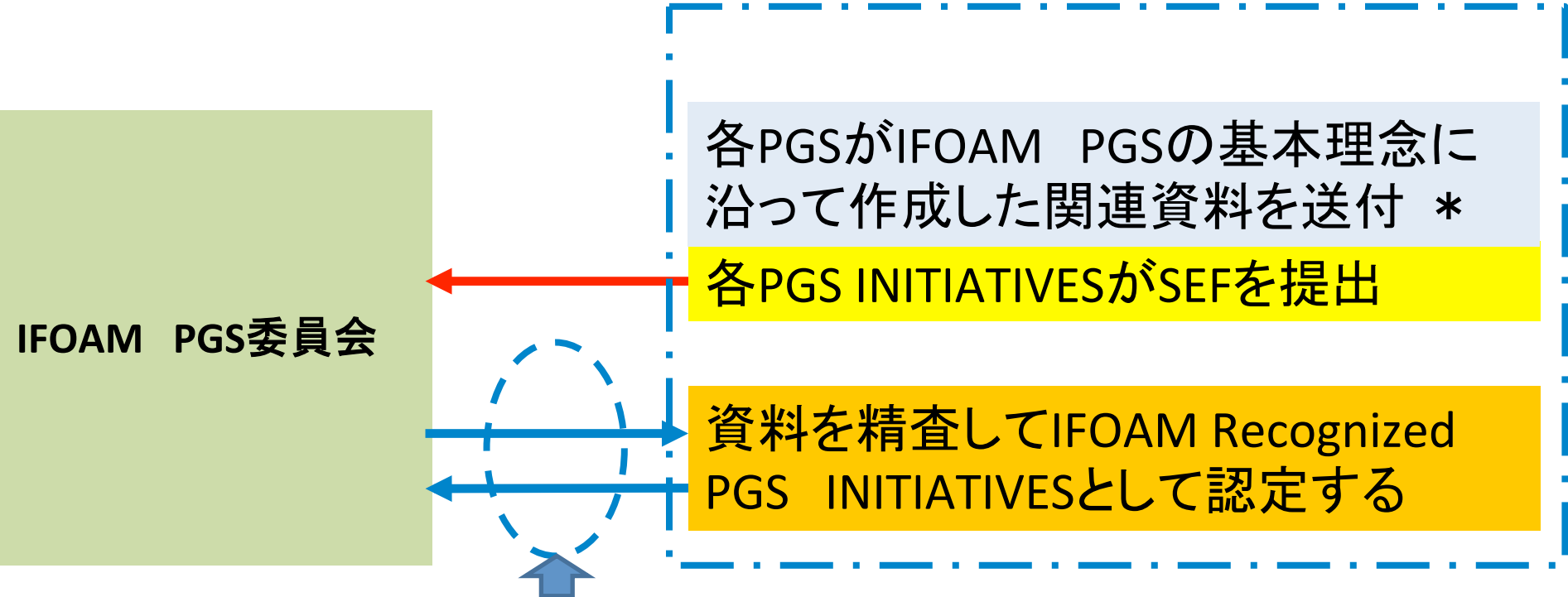
これを取得すると、下記のIFOAM PGS LOGOの使用が可能となる (但し、名刺・バナー・レターヘッド・WEBSITEに限る)

有機産品に直接貼ることはできない



IFOAM PGSではIFOAMからSTAKEHOLDERSを直接各国に派遣できない。従って認証をすることができないので下図のような認定というシステムを採用している。

* : Organic 雫石はIFOAMに紹介された南アフリカ共和国のPGSDキュメントに基づいて前記7本の資料を作成。



SEFを含めて、何回かのやり取りのあとIFOAM RECOGNIZED PGS INITIATIVESの認定が下る。最低1-2年かかる。オーガニック雫石は2016年に申請をし2018年12月4日に取得。約2年間を要した。

IFOAM PGS Recognition

Through the IFOAM PGS Recognition program, we evaluate whether a PGS operates in accordance with the Key PGS Elements and Features and verify the integrity of a PGS vis-à-vis the Principles of Organic Agriculture. **The evaluation process is entirely free of charge.**

PGS initiatives that have received IFOAM PGS Recognition are granted access to the IFOAM PGS Logo, which can be used in communication materials, such as websites and brochures, **but not on products.**



Any PGS may apply for IFOAM PGS Recognition if they are affiliates of IFOAM and if their production standard is listed in the IFOAM Family of Standards. To initiate the evaluation process, please read the instructions for applicants and send your completed Self-Evaluation Form (SEF) to pgs@ifoam.bio.

5. IFOAM RECOGNIZED PGSを取得するには

A. IFOAM RECOGNIZED PGSを目指しているグループは

(1) IFOAM Organics Internationalの会員*であること

*: 2021年10月1日現在の日本の会員は

<https://directory.ifoam.bio/affiliates?utf8=%E2%9C>

[%93&filter=&country filter=Japan®ion filter=&scope=](https://directory.ifoam.bio/affiliates?utf8=%E2%9C%93&filter=&country_filter=Japan®ion_filter=&scope=)

生産者が中心となっている会員数は3（秀明、敷信村農吉、オーガニック雫石）

(2) PGS INITIATIVESからのDOCUMENTSがIFOAM PGSの基本理念に従っていると認められていること

(3) 自己評価様式 (SELF EVALUATION FORM) をIFOAM PGS委員会に提出すること

SEFは2年ごとの更新をIFOAMから要請される

(4) IFOAM RECOGNIZED PGS INITIATIVESとなるべく努力していること

これらはすべてIFOAM-PGS 委員会とのメールやり取りで行われる

B. IFOAM RECOGNIZED PGS INITIATIVESをめざす生産者グループに必要なこと

- (1) 複数の生産者のグループを作ること。
最低3名が生産者が必要。農場調査の相互認証に最低必要。
- (2) グループメンバは生産者・消費者のほかに有機農業や産品に興味のある人々(STAKEHOLDERS)を含むこと。
多くの人々がかかわることによって認証の精度を高める。
- (3) グループの将来性・継続性が担保されていること。
IFOAMが世界的なNGOであるために各国PGSグループからの年会費がその存続の鍵を握っているため。

- (4) IFOAM PGSの基本理念に従ったDOCUMENTSを作成すること。
(オーガニック雫石のDOCUMENTSを加筆修正すれば簡単に作成可能)

[オーガニック雫石PGS関連資料 - オーガニック雫石 \(jimdo.free.com\)](http://jimdo.free.com)

- (5) IFOAM本部と英語でやり取り(メール、スカイプ、ZOOMなど)のできる人材がいること。

C. その他のグループ

(1) JAS取得済の生産者：自動的に**IFOAM RECOGNIZED PGS INITIATIVES**を取得できない。(5. A, B参照)

(2) MOA、秀明グループなどなど：自前で有機であることを保証？

IFOAM PGS INITIATIVESを作るには (オーガニック雫石の経験をもとに)

- (1) 有機生産者が直径20kmの円内に3名以上いること
農場調査を能率的に進めるには生産者間距離の分布は重要
- (2) その円内に消費者を含めて有機農業・有機産物に対して興味のあるジャンルの異なる人々(STAKEHOLDERS)を確保できること。
同上
- (3) INTERNET MAIL及びWORD、Excel、POWER POINT及び英語が使える人材がいること。
打ち合わせ案内、IFOAM本部との連絡、関連DOCUMENTSの作成管理上必須。
- (4) PGSグループが集まれる場所(公民館、コミュニティセンタ)があること。

6. オーガニック雫石の場合

(1) 直径20km円内に分布している有機産品生産農場

雫石創作農園、CREATE FARM、上野農園

イーハトーブファーム、南部片富士印農園、エンデバー農園

SoiLの農園*、西根農園* * : 予備審査中

(2) STAKEHOLDERS (生産者以外)

県立大学助教、雫石町西根保育士、主婦、元小岩井農場常務、

保険代理店専務、レストランシェフ、ペンション経営者

元マレーシアTUNKU ABDUL RAHMAN大学工学部教授

(アドバイザー)

雫石町農林課指導員

(3) インタネットなどIT技術の活用

ほとんどのメンバーが使いこなす。

(4) 定例打ち合わせ場所

雫石公民館源太堂

D. IFOAM PGS委員会へ以下の資料を送付:2017年11月27日

資料1: Organic Shizukuishi PGS 2017 Annual Report to IFOAM PGS Committee

資料2: Participatory Guarantee Systems (PGS) Self-Evaluation Form (SEF)

資料3: Organic Shizukuishi contributions to OWC 2017 and General Assembly of IFOAM-Organics International

資料4: Organic Shizukuishi replies to IFOAM PGS Committee suggestions on 30 November 2016

E. 2018年4月にIFOAM PGS委員会からオーガニック粟石以外の有機の生産者2名の推薦状を送付するよう要請があった。

F. 2018年12月4日にIFOAM RECOGNIZED PGS INITIATIVESの認定を受けた。

2020年のオーガニック雫石の農場調査

- A. オーガニック雫石PGS応募申請書の内容チェック:2020年6月30日
- B. オーガニック雫石PGS生産者農場調査:2020年7月22日
評価チーム(17名が参加)
(生産者:福本、上野、高橋、小宮、加藤、福士夫妻、山崎、堂前
その他のSTAKEHOLDERS:藤澤、濱塚、築地、遠藤、小野、神岡、
竹林、東条)
- C. オーガニック雫石PGS会員認証書の発行:2020年8月15日



Ecofriendly



Shizukuishi

2020年度オーガニック雫石PGS農場調査スケジュール

2021年度はコロナのため中止

順路	2020年7月22日 時間	農場名	農場調査員＊氏名 (<u>アンダーライン</u> の方は調査責任者として担当圃場の各調査員からの調査書最終頁にある「 注意書き・コメント・是正へ向けての行動 」をまとめて下さい)
1	7:30 am	雫石創作農園 (福本) に集合。打合せ 10分	
2	7:40 -8:10am	創作農園 (福本) 調査	<u>小宮</u> 、 <u>福本</u> 、高橋、福士夫妻、 加藤、堂前、山崎 上野、藤澤、濱塚 (高橋・築地)
3	8:30-9:00 am	上野農園(上野)調査	<u>高橋</u> 、小宮、福士夫妻、加藤、堂前、 山崎、上野、藤澤、濱塚 (高橋・築地)
4	9:20-9:50 am	西根農園見学 (注)	<u>加藤</u> 、堂前、福士夫妻、山崎、上野、 小宮、高橋、藤澤、濱塚 (高橋・築地)
5	10:00 -10:30	クリエイトファーム (高橋) 農園調査	<u>山崎</u> 、堂前、福士夫妻、上野、小宮、 高橋、藤澤、濱塚 (高橋・築地)

6	10 : 40- 11 : 10	SoiLの農園 (山崎) 見学 (注)	<u>濱塚</u> 、高橋、福士夫妻、加藤、堂前、上野、小宮、藤澤、 (高橋・築地)
7	11 : 20- 11 : 50	Ihatov Farm (小宮) 農園 調査	<u>藤澤</u> 、高橋、福士夫妻、加藤、堂前、上野、小宮、濱塚 (高橋・築地)
8	12 : 00-13:00	小宮工房で昼食	
9	13 : 10-13:40	エンデバ農園 (福士) 調 査	<u>堂前</u> 、福士夫妻、高橋、加藤、山崎、上野、小宮、藤澤、濱塚 (高橋・築地)
10	13:50 – 14 : 20	南部片富士印農園(加藤) 調査	<u>上野</u> 、加藤、高橋、福士夫妻、堂前、山崎、藤澤、小宮、濱塚 (高橋・築地)
11	15:00-	全体反省(とちの実にて)	高橋、小宮、福士夫妻、加藤、上野、堂前、山崎 藤澤、濱塚、 (高橋・築地) 計：12名 (オーガニック雫石+町役場のメンバーのみのカウント)
0	16 : 30	解散	() 中は雫石農林課より参加

[農場調査に関する留意事項]

農場調査の時間は30分-40分です（福士幸子さんタイムキーパーをお願いします）。皆さんは以下の事前準備をお願い致します。

1. 参加者の皆さんは、各生産者への質問の目安を考えておいてください。各生産者のポイント、過去の調査状況を参考にしてください。
2. 8月1日当日は評価チームの皆さんに送付した生産者が一部記入した農場調査書をプリントして調査に臨んで下さい。調査様式に気付いた点も含めて記入して頂くので、A4ヨコクリップボードも各自用意して下さい。
3. 皆さんに記入して頂いた農場調査書は当日15：00からの反省会の時に各自各農場の調査責任者に提出してください。また、記入できなかった内容についても口頭で結構ですので反省会時にどんどん追加をお願いします。
4. **山崎さん**各農場調査の写真記録をお願いします。
5. **福士幸子さん**全体のタイムキーパーをお願いします。

高橋さん・副代表さん：調査書の最後の項目にある「注意書き、是正のための行動及び推奨の状況」については評価チームの代表者としてのサインまたは印鑑をお願いします。

最終的に農場調査がOKとなると、8月15日（土）に「オーガニック雫石PGS会員認証書」に認証する野菜の名前を記入することになります。今回の農場調査で**申請書に記入したすべての作物の認証を受けたい場合にはそれらすべての野菜などの畑をすべて見せて頂くようお願い致します。**

車移動となりますので安全運転で無理の無い様、事故の無い様お願いします。

[招待調査員の皆さん]

お名前	所属
遠藤さん	マイヤ（スーパー）
小野さん	オネットマーケットプラン(株)（岩有協）
神尾さん	岩手ラボ
竹林さん	有限会社まや（岩有協）
東上さん	雪印種苗
計	5名

栗石創作農園（畑＋ハウス） 黒千石豆、小豆、カボチャ、 トマト



イタリー種巨大トマト St. Mario Arezzo (イタリアの巨大トマト：800gにもなる)



農場調査員の面々@雫石創作農園



上野農園 秋田こまちを20年間にわたり有機で生産 本当に美しい田圃と稲の生育の様子





西根保育所の子
供たちと先生方
が管理している
有機圃場

西根農園* 黒千石豆、オクラ、ナ
ス、ピーマンなど

* : 今回は予備調査

クリエートファーム 以前川床とだったため石ころゴロゴロの畑地



ササゲのトンネル



カージナルフレッシュ：ソーセージタイプのミニニンジン
食味に優れ作りやすい！



秋取りインゲン
(モロッコ、おおひら)

SoiLの農園



左側ハウスの中はトマト（パルマ、プリンセスロゼ、エメラルド）

ハウス前の畑ではさつま芋とジャガイモ（シャドークイーン、きたあかり）

南竜本長ナス

イーハトーブファーム



トマト500本挑戦：
ポンデローザ (200)
ローマ (100)
ミニトマト (100)
ブラックラッシアン (100)

小豆の不耕起栽培今年初めて挑戦 斜面のため管理が大変



えんでは農園

花豆の
トンネル



枝豆秘伝



さつま芋シルクスイート



見事なジャガイモ

南部片富士印農場 枝豆（秘伝） 専門農場 連作10年目



グリムソクローバによる線虫
退治

まとめと反省会@ほにほに柳沢



7. まとめ

- (1) IFOAM PGSはIFOAMが提案した基本理念に従った、Glocalな認証システムである。
- (2) オーガニック雫石は2018年12月4日にわが国で最初のIFOAM RECOGNIZED PGS INITIATIVESとなった。
- (3) オーガニック雫石は今までの経験を踏まえてIFOAM RECOGNIZED PGSとなるためのすべての関連DOCUMENTSやIFOAM本部(ドイツ ボン)とのやり取りに関するKNOW-HOWをすべての日本のPGS取得挑戦者に提供します。

IFOAM RECOGNIZED PGS グループ
のロゴマーク (2021年10月1日現在)
赤いFONTのPGSはロゴにORGANICと
記載していることに注意



フランス



ナミビア



ニューカレドニア (BIOとはORGANICを指す)



フィリピン



ニュージーランド



வாழ்நிக அகலாடுந்ல அகலநிககடஞ்ல ஐலலேடக
பங்கேறபாளர் உத்தரவாத முறைமை

スリランカ

Ecofriendly



Shizukuishi

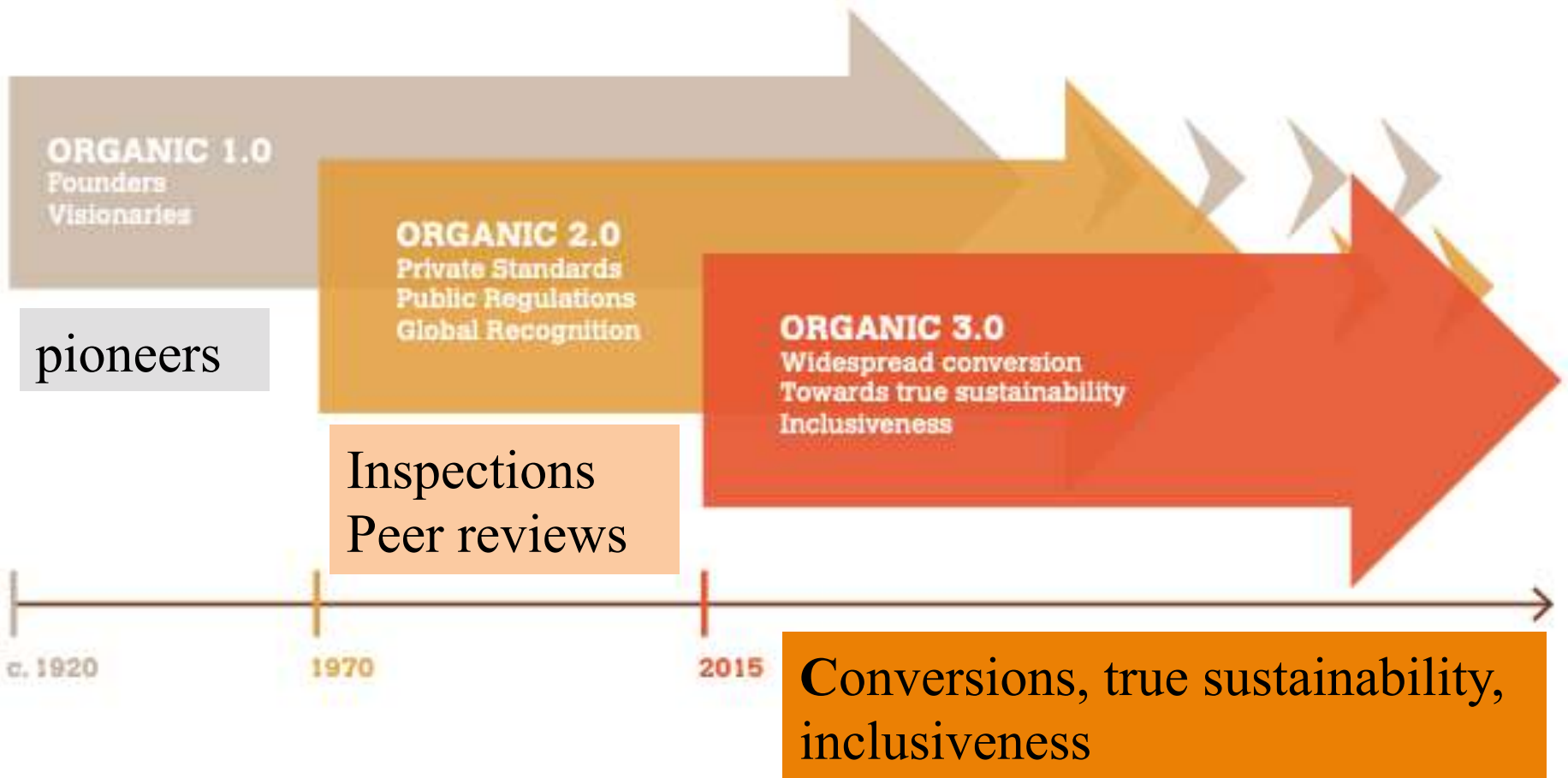


ベトナム



USA

最近のIFOAM-Organics Internationalの動向



全世界の耕地面積のうち有機の占める割合は2018年現在で1.5%:IFOAMはあせっている。急にORGANIC 3.0の考えが出てきた。ただし、ORGANIC 3.0はIFOAM Recognized PGS Initiativesをまじめにやればおのずと達成できる。